

## か だ る

k a d a r u

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

## 輝く★シニア



## 「日本一小さい村」で山村の魅力を発信

バッテリー村 村長 <sup>きとうこ</sup>木藤古徳一郎さん (久慈市) 80歳

バッテリー村は昭和 60 年、山村文化の継承を目的に久慈市山形町(旧山形村)に開村。「バッテリー」という言葉は、昔、水力を使って精穀をする時に響いた「バタン」という音が由来となっています。村長の木藤古さんは、染物、木皮工芸、わら細工等の作業体験や自然散策等によって山村の生活を継承する活動を続けています。

バッテリー村を開村する前は、山形村役場や、農協に勤めていた木藤古さん。昭和 57 年、父が病気になることから、実家のある荷軽部へ戻りました。山間部に位置する荷軽部には近代の文明の風景はなく、当初そのこと自体には誇りも何も感じていなかったといいます。しかし、農協在職時に知り合った首都圏の消費者団体「大

地を守る会」が山形村を訪れることでその価値観は変わりました。水車などは都会の人に見せられないと、当初、処分も考えましたが、父からの「ありのままの生活を見てもらうことが大切」との言葉に、山村の生活をそのまま体験してもらうことに。「山村文化、広大な自然はこの土地の宝だ」と都会生活者に感銘を与えていることに気づき、体験受け入れを開始しました。「山村文化や昔の生活を教えているのは、若者に『生きる』ということを知ってもらいたいからだ。便利で豊かな時代の生活しか知らない現代人が、山から薪を取ってきて風呂を沸かし、畑で採れた野菜で自炊したりする。その経験を通して生きていく上で大切なものが見えてくる。そこに気付いてほしい」と木藤古さんは言います。

毎年新しいことに取り組んでいるという木藤古さんは、今年、バッテリー村に「森の文庫」を完成させました。木で作られた小屋には、県内の各方面から寄贈された本が本棚にきれいに整理されています。

「我々高齢者は若い人より早く生まれた者として、社会の先頭に立ち、見失っていることを伝える責任がある。若者はそのような先輩を見て続いていくのだと思う」。そう語る木藤古さんは「今後続けられるまで、続けていきたい」と穏やかな語り口の中に自然の中で生きる力強さを滲ませていました。

バッテリー村(木藤古さん)へのお問い合わせは 0194-72-2959 まで。





## 地域における高齢者の出番と活躍 ～社会的孤立を越えて地域の支え手に～

政府は、6月に平成23年版の高齢社会白書を公表しました。白書では、高齢化が進展する中で、来年から65歳に達し始めるいわゆる「団塊の世代」を含む高齢者が、社会参加活動に積極的に関わり、「支えられる側」ではなく、「支える側」として活躍することを期待しています。ポイントを紹介します。

### ○高齢社会を「支える側」へ

わが国は、平成22年（2010年）10月1日現在、65歳以上の高齢者人口は2958万人で高齢化率は23.1%、5人に1人が高齢者、9人に1人が75歳以上という本格的な高齢社会となっています。また、「団塊の世代」が全て65歳以上となる平成27年（2015年）には、高齢者人口は3千万人を越え、高齢化率は26.9%となる見通しです。

高齢化率が上昇し続けている中で、元気な高齢者には「支えられる側」ではなく、高齢社会を「支える側」としての活躍が望まれています。現に60歳以上の高齢者の59.2%は何らかのグループ活動に参加しており、10年前と比べて15.5ポイント増加しています（下図のグラフ参照）。

### ○地域における高齢者の出番と活躍

高齢者の社会参加は、これまで自治会や老人クラブ

等の「地縁」による取り組みが主体でしたが、近年は住む地域に関わらず参加できる、多様な「居場所」が増えています。社会的孤立を防ぎ、「参加」への多様なニーズに応えるためのきっかけとして、有償ボランティア等も含めた様々な仕組みを導入することが必要とされています。

白書では、「地域の茶の間」、「時間通貨」、「介護支援」など多くの具体的な参加事例が紹介されています。

### ○東日本大震災被災地における高齢者の活躍

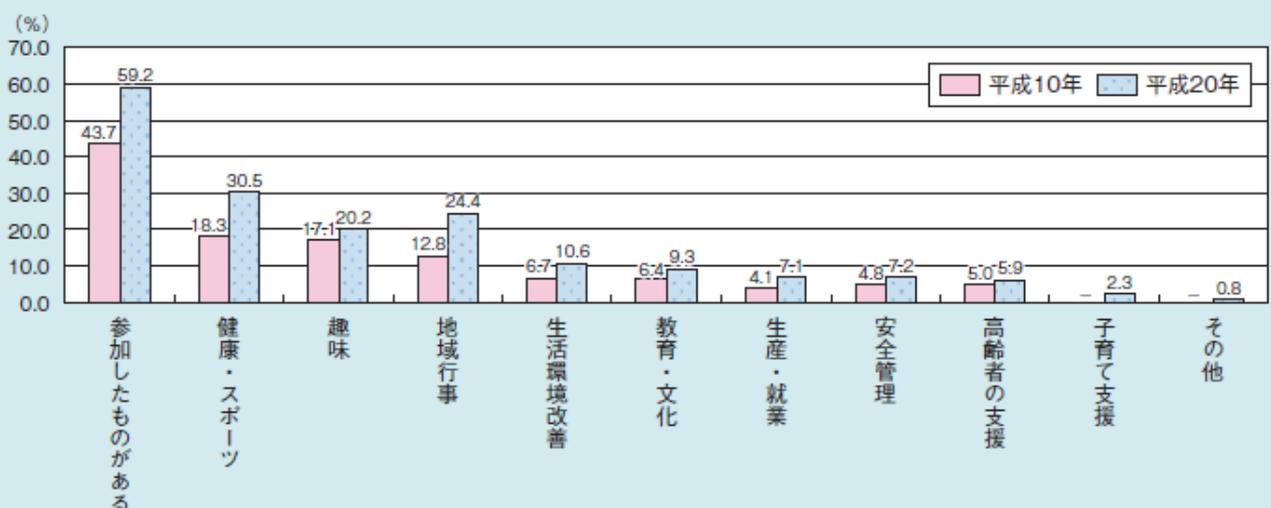
～ 仙台市のNPOあかねグループの例 ～

今回の東日本大震災では、岩手、宮城、福島の三県で、被災後1ヶ月間に年齢が確認できた死者のうち60歳以上の高齢者が、全体の65.2%と高い率を占めていました。

一方、配食サービス等を行う仙台市のNPOあかねグループのボランティアスタッフは、余震が続く中、暗い街を懐中電灯をたよりに、お年寄りを確認しながら弁当を配達して廻りました。スタッフの多くが高齢で、身内が津波の被害を受けたり、避難所生活を余儀なくされた人もいましたが、避難所から通いながら、配食や介護サービスを続けたと、白書は伝えています。

本県の被災地でも、各地で多くの高齢者がボランティアとして様々な活動を行っています。

図1-2-5-1 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）  
 (注1) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果  
 (注2) 「高齢者の支援」は、平成10年は「福祉・保健」とされている。

## ■傾聴ボランティアもりおか（盛岡市） 不安や寂しさを癒す傾聴活動

傾聴活動とは、不安や寂しさを抱えている人の心に寄り添い、相手の話をじっくり聞き、ありのままに受け止めて、抱えている不安や寂しさを和らげる活動です。傾聴ボランティアもりおか（藤原一高会長 会員 70 名）は、所定の研修を受けた傾聴ボランティアが、福祉施設や病院、個人宅を訪問し、この傾聴活動を続けています。

さらに、3月の大震災以降は盛岡周辺にとどまらず、被災地である沿岸でも傾聴活動を始めています。被災地での傾聴活動は、自衛隊の「お話し伺い隊」との連携で4月から始めました。5月15日以降は単独で活動しています。当初は避難所での活動が中心でしたが、仮設住宅へ移る中、これまで支え合っていた被災者同士が離れ離れになる例が多くなり、仮設住宅での傾聴活動はさらに重要性を高めています。

藤原会長は「今後も会員と一緒にあって、被災された

皆様のために傾聴活動に取り組みたいが、通常の盛岡周辺での活動のほか、被災地での活動も加わったため、今の人員体制では足りない。3年計画で傾聴ボランティア養成講座を開催している」と話をしています。

お問い合わせは藤原会長携帯 090-2983-5624 まで。  
(連絡の際は 9:00～17:00 の時間帯をお願いします)



例会に集う「傾聴ボランティアもりおか」のみなさん

## ■おたすけライフ更木（北上市） 交通手段を持たない高齢者への支え合い活動

おたすけライフ更木（菅谷幸雄会長 会員 10 名）は、北上市更木地区で、自ら交通手段を持たない高齢者や体の不自由な高齢者を対象に病院等への移送サービス、買い物代行、お話し相手、冬季は除雪作業などの支援活動を始めました。



菅谷幸雄会長（左）と事務局の千田秀美さん（右）

同地区では高齢化が進み、自家用車も持たないため、病院や買い物に行くことが困難な高齢者が増えています。その状況を打開すべく、平成 23 年 5 月に同会は発足。同年 8 月、各家庭にチラシを配布して利用者を募集し、順次依頼を受けてサービスを開始しました。サービスを利用する方は、まず同会へ登録。依頼したい内容（買い物代行、移送サービス等）を事務局へ電話で告げ、同会のスタッフがサービス対応をします。

菅谷会長は「この地区の有志が集まってこの活動を開始した。これから地域に浸透してゆくことで、より多くの方々の協力や広がり期待したい」と語っています。

お問い合わせは事務局 090-2271-8649 まで。

(この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

## コラム～書籍紹介～

### 「たとへば君 四十年の恋歌」河野裕子、永田和宏 文藝春秋

昨夏 64 歳で亡くなった歌人河野裕子と、夫で科学者、歌人の永田和宏が詠み交わした相聞歌集。青春の出会いから 40 年間の深い夫婦愛が胸を打つ。本の題名は、「たとへば君ガサッと落ち葉すくふやうに 私をさらって行ってはくれぬか」からとられた。河野が 21 歳、永田と出会った頃の歌である。没後、河野の歌集が相次いで出版されている。



## シニア層を対象にした交流サイトの紹介

### 『Slownet(スローネット)』

<http://www.slownet.ne.jp/>

シニア向けの様々なブログを公開したり、写真、読み物、全国のサークル情報などが掲載されています。

### 『シニアネット交流広場』

<http://nmda-snr.saloon.jp/>

日本各地で元気に活躍しているシニアネットの情報交換と共有の場を目的に設置したサイトです。

岩手バラ会（三上圭一会長、会員 64 人）は、昭和 30 年 6 月に、100 名を超える会員で発足。当時、「盛岡をバラの街に」という夢もあったようです。以来、60 年の長い歴史を刻み、機関誌「いわてバラだより」は 141 号を数えています。当初から美しいバラを介して地域社会に奉仕することも岩手バラ会の事業とされ、昭和 42 年には盛岡少年刑務所に、昭和 57 年には盛岡少年院にバラ園を造成し、寄贈しています。

また、春、夏恒例の剪定講習会は、昭和 50 年からは例年盛岡城跡公園のバラ園で行われており、今年も 3 月と 8 月の 2 回開催されました。8 月 7 日に行われた夏の剪定講習会には一般の方々も含めて 10 名が参加。大釜副会長の基本的説明の後、実際に剪定ばさみを使って実技講習を行いました。大胆な切りこみに、参加者からはため息も漏れました。



夏の剪定講習会での大釜副会長の説明

岩手バラ会の恒例の行事としては、春のバラ祭り、秋のバラ観賞会等でコンテストを行うほか、県内外のバラ園の見学会なども行っています。現在は会員が 64 人、大半が 50 代以上で男性は古くからの会員が多く、バラ好きを通り越して「バラきち」と呼ばれる人も。

バラの魅力は、その端正な雰囲気と、色と香りの種類の多さ。一方、難点はどうんこ病等の病害虫の多さです。しかし、栽培管理の難しさに挑み、期待どおりの美しい花を咲かせることが、バラ好きの気を惹くところでもあります。例年の忘年会は、その年のバラの話で持ちきりとのこと。

お話を伺った副会長の釜睦男さんは、「会員を増やして、バラの魅力を多くの人に知ってもらいたい。」と話しています。

同会へのお問い合わせは、釜睦男さん（019-661-2208）まで。



剪定ばさみを使っての実技講習

## 「地域の団体交流会・助成金説明会（仮称）」開催のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、平成 24 年度「ご近所支え合い活動助成金」の説明会と団体相互の交流会を下記の日程により県内各地域で実施いたします。お問い合わせは岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターまでご連絡ください。

盛岡	平成 23 年 10 月 25 日	アイーナ	大船渡	平成 23 年 11 月 18 日	大船渡地区合同庁舎
釜石	平成 23 年 10 月 28 日	釜石地区合同庁舎	奥州	平成 23 年 11 月 25 日	奥州地区合同庁舎分庁舎
久慈	平成 23 年 11 月 4 日	久慈地区合同庁舎	一関	平成 23 年 11 月 29 日	一関地区合同庁舎
二戸	平成 23 年 11 月 8 日	二戸地区合同庁舎	北上	平成 23 年 12 月 2 日	北上地区合同庁舎
宮古	平成 23 年 11 月 10 日	宮古地区合同庁舎	花巻	平成 23 年 12 月 6 日	花巻地区合同庁舎

企画・発行/岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成 23 年 9 月 10 日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階 tel 019-606-1774 Fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>